

わたしたちの
人権 66

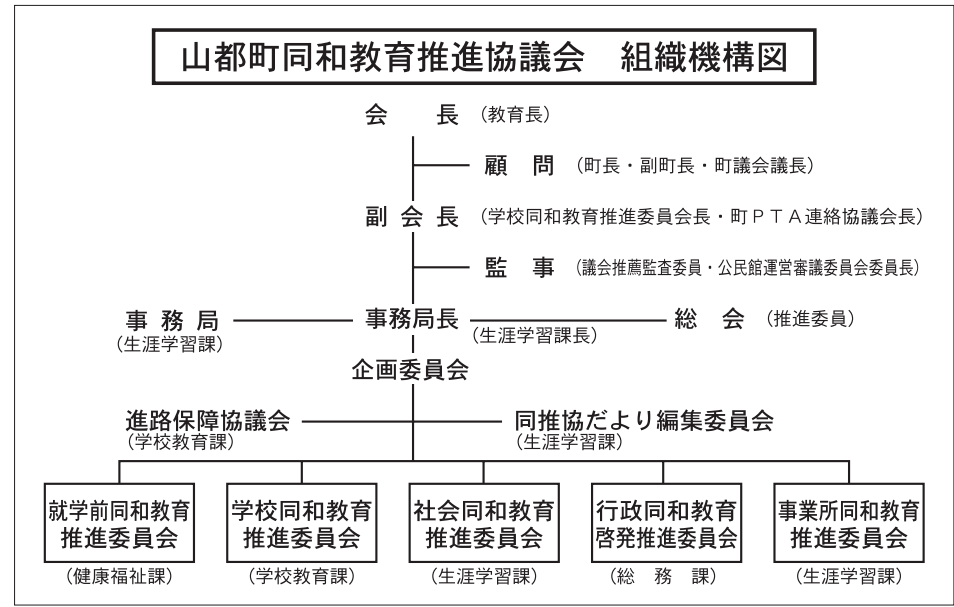
だれもが人間として生きていくうえで
侵すことのできない当然の権利
これが『人権』です

山都町同和教育推進協議会

同和教育問題は、政治的・人為的につくられた身分制度に基づく、日本固有の部落差別に関わる人権問題です。1871（明治4）年の「解放令」から約140年、日本国憲法の制定からも60年以上、今なお未解決のまま残されていることについて、行政的にも大きな責務が問われています。差別が現存している限り、すべての国民に基本的人権を保障している憲法の理念に従い、同和教育の解決に向けた取り組みを進めていかなければなりません。

山都町同和教育推進協議会は、本町の同和教育推進のために研究協議を行う機関です。旧町村から続く同和教育推進の意思を引き継ぎ、正しい理解と実践に努めることを目的に、合併後の2005（平成17）年7月に新設されました。協議会を構成する推進委員は、各機関の代表85名。役場のほか、町議会、社会福祉協議会、学校長、区長会、商工会、民生児童委員、公民館支館長、PTA連絡協議会、人権擁護委員、消防団、農協、事業所、老人会、婦人会、青年団、部落解放同盟支部、学校の人権教育主任など、幅広い分野の構成員により同和教育の推進に取り組んでいます。ま

た、具体的な計画の立案・実践については、5つの委員会（就学前同和教育推進委員会、学校同和教育推進委員会、社会同和教育推進委員会、行政同和教育啓発推進委員会、事業所同和教育推進委員会）と進路保障協議会が連携しながら分担します。



講演する洲上昭六さん

7月8日、中尾児童館で山都町同和教育推進協議会の総会が開かれました。各委員会からの2009年度事業報告のあと、2010年度の活動方針・事業計画などを承認。同和教育に対する間違った考え方が、一部では根強く残っているというのを改めて認識し、問題解決のために各機関が連携しながら教育・啓発を進めていくことを確認しました。また、総会後には研修会が行われ、嘉島町同和教育研究サークルの洲上昭六さんが、「生きる」と題して講演をされました。同和教育から目をそむけようとして、自分の差別心になりつつあること、今までの自分の生き方について疑問や怒りを持つような時期があったという洲上さん。「多くの人と出会うことによって、自分を見つめ直すことができました。また、自分に正直になることで、生きているという実感を持つことができるようになりました。今では、自分の正直な思いを伝えることができる講演を通して、自分の生き方を確かめ続けています」と、晴れ晴れとした表情で話されました。

季節のうた

▼清和短歌会
香き日と変わらぬままの山河あり
窓明け放ち深く息吸う
梅雨空に梢ゆらして鳴き渡る
ホトトギスの声細く悲しき
耕耘脇を鴉つきくるとことと
あざける如く慰さむ如く
山本フサ
梅田市子
梶原徹

▼馬見原酔山会
田草引く水のつぶやき聞きながら
向日菜と黄色い帽子背比べ
をさな子の昼寝仏間の真中に
能登多喜智
高田ゆかり
赤崎志朗
岩永周子

▼やまなみの会
梅雨前に庭木剪定終えられたれば
たまるストレス一つとれたり
置いて来し野菜苗少し植えむとて
畑に立てば鶯の啼く
籠もり居れば季節は吾を取り残し
初夏の色にぞ衣更へせる
夕闇にとよめきながら河鹿待つ
雨濁りとれゆく流れ河鹿鳴く
万緑の秘めし暗さのありにけり
飯星セチ子
古閑比奈子
赤星たづえ
天崎信恵
岩村ヨシ子
菊池成河

▼通潤句会
太陽の塔手を広げ大暑かな

9月の当番医

9月5日	伴 病院 (電話72-0029)
9月12日	瀬戸 病院 (電話75-0111)
9月19日	矢部広域病院 (電話72-1121)
9月26日	野田 医院 (電話72-0307)

山都町の人

(平成22年7月31日現在)

男	8,832人 (-4)
女	9,443人 (-9)
計	18,275人 (-13)
世帯	6,796戸 (+8)

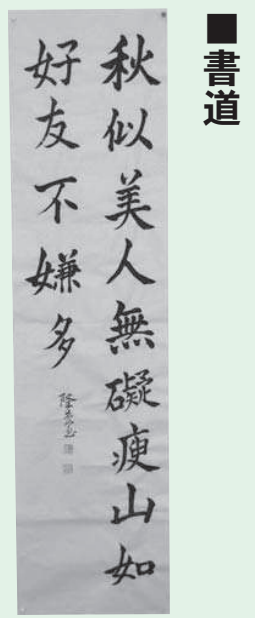
※ () は前月比
 ※ 最高齢は105歳〔女性1人〕
 ※ 1月1日～7月31日の出生届数 60人〔うち7月は13人〕
 ※ 1月1日～7月31日の死亡届数 180人〔うち7月は21人〕

第10回記念総会

7月11日、関西矢部会第10回記念総会及び懇親会が開催され、熊本・兵庫両県の副知事など約200名の参加がありました。総会で、会より町の振興及び図書館活動支援として20万円を寄贈いただきました。

関東・関西・中部の各ふるさと会からは、寄付金やふるさと納税など、多方面で山都町振興のためご支援をいただいています。

各ふるさと会では皆様の入会をお待ちしています。ご希望の方は、企画振興課(72-11214)までお尋ねください。



編集後記

昨年に続き、今年も蘇陽高野球部の試合を見ることができました。今年で最後となったが、今でも担当Fの見る限り、毎回全力で、しかも楽しそうに試合をする蘇陽高ナインでした。最後の回の攻撃で三振した選手が地面を叩いて悔しがり、試合終了と同時に涙を流す横顔を見ました。「最後の単独出場」ナインには心に期するものがあつたのでしよう。

その思いを引き継ぐかのようなく、矢部高野球部のベスト16という素晴らしい結果！県内の強豪校と比べると圧倒的に少ない部員数ながら、見事な輝きを放つ選手たちでした。

(F)